

▶ 表示器類のLED化

電球より消費電力が少なく長寿命であるLED(発光ダイオード)を信号や踏切関係の灯器類や駅の行先表示器などの設備に使用し、省電力化を図っています。



LED化された行先表示器

▶ 駅照明の省エネルギー化

省エネルギー化を図るため、平成23年1月の八幡市駅の駅舎改修の際に、LED照明を150台導入し、平成23年度工事で牧野、丹波橋、宇治駅のコンコース照明をLED化しました。そのほか、枚方公園駅ホーム照明のHf蛍光灯化(高周波点灯蛍光灯)をするなど導入を進めています。Hf蛍光灯は従来の蛍光灯に比べて約40%の消費電力削減が期待できるほか、ちらつきや照明器具からの騒音が抑えられる効果があります。



LED照明



Hf蛍光灯

▶ 夏と冬の節電対策

当社では「ISO14001」に基づき鉄道電力の削減に取り組んでいるほか、平成23年度は関西電力(株)からの夏期・冬期における節電依頼に対応し、夏期は7月1日(金)~9月22日(木)平日(8/12~16除く)の9時~20時、冬期は12月19日(月)~3月23日(金)平日(12/29~1/4除く)の9時~21時にそれぞれ下記のとおり節電を実施しました。

電力不足に対応した節電

	夏期	冬期
①空調・換気関係	終日 ・地下線6駅冷房設定温度2度上昇 12時~15時 ・地下線換気機運転調整	9時~21時 ・地下線換気機運転調整
②照明関係	終日 ・コンコース照明減灯 ・電照看板の撤去および空枠の消灯 ・自動販売機前面ディスプレイ消灯	
③昇降機関係	12時~15時 ・駅のエスカレーター一部休止	10時~17時 ・駅のエスカレーター一部休止
④業務関係	9時~20時 (事業所により時間帯は異なる) ・クールビズ温度徹底 ・未使用スペースの消灯徹底 ・昼休みの照明消灯の徹底 ・空調稼働時間の短縮 ・OA機器省電力モード設定 ・OA機器未使用時電源オフ	9時~21時 (事業所により時間帯は異なる) ・ウォームビズ温度徹底 ・未使用スペースの消灯徹底 ・昼休みの照明消灯の徹底 ・空調稼働時間の短縮 ・OA機器省電力モード設定 ・OA機器未使用時電源オフ ・ノリ残業デーの徹底

※本社などのオフィスにおいても、照明の間引き点灯や空調稼働時間の短縮など、節電対策を実施しました。

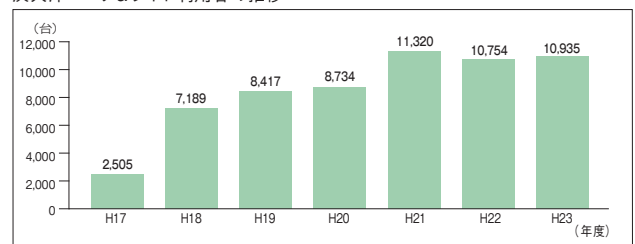
地球温暖化防止の取り組み (公共交通利用促進)

▶ パーク&ライド

当社では、京都方面に訪れる観光旅客のパーク&ライドを行政機関と協働で取り組んでいます。

とりわけ京都東山地区は、年間約1,500万人の来訪がありますが、特に秋の行楽シーズンの休日には、周辺道路は大渋滞し、バスの遅延や緊急自動車の通行が困難になるなど地域交通問題となっています。そこで、平成17年よりパーク&ライド駐車場としてマイカー利用者にご案内しています。また、自宅周辺に公共交通機関がないなどの理由によるマイカー利用者が公共交通機関を利用し易くするために、当社とタイムズ24(株)は、京阪電車沿線の時間貸駐車場「タイムズ」において、全国で初めて、交通ICカード「PiTaPa」と「ICOCA」のどちらでも支払い可能な電子マネーサービスを導入、交通ICカードを用いて京阪電車をご利用のお客さまに駐車料金を優待する「交通ICパーク&ライドサービス」を平成23年7月29日から開始しました。マイカー利用者にパーク&ライドへの移行を促すことで、京都市内の渋滞緩和と公共交通利用促進による環境負荷の低減に努めています。

浜大津パーク&ライド利用者の推移



▶ サイクル&ライド

市街への自動車の流入を抑制して電車の利用を促進するため、関係行政と連携し、必要に応じた駐輪場の設置や現在問題となっている放置自転車対策についての協議を進めています。

平成23年度は野江駅、萱島駅、香里園駅、枚方市駅で駐輪場を増設しました。



香里園駅駐輪場



枚方市駅駐輪場

▶ 他社線との連携強化

京都は年間約5,000万人もの観光客が訪れる国際観光都市であり、近年では自家用車に加えてJR京都駅発着のバスやタクシーによる交通渋滞と排気ガスによる環境問題が深刻化しています。

そこで、当社では西日本旅客鉄道(株)と協働で駅の表示やパンフレットなどお互いの路線表記を充実させ、東福寺駅を経由した鉄道の乗り継ぎ(「JR」京都駅⇒「JR」京阪「東福寺駅」⇒「京阪」七条・清水五条・祇園四条駅)をPRしています。

また、平成23年11月6日より両社の東福寺駅ホーム間で、階段を利用せずに乗り換えていただける「のりかえ口」を供用することで、乗り換え負担を軽減し、公共交通利用促進による環境負荷の低減に努めています。



JRとの併用「のりかえ口」(東福寺駅)